

# 第2回みんなで作る地域包括ケア学習交流会

## 開催報告

### 【1】企画内容

日 時 2018年（平成30年）1月24日（水）13：30～16：30

会 場 鹿児島市レンブラントホテル（鹿児島市鴨池新町22-1）

参加費 無料

内 容 1. 基調講演 「鹿児島の地域包括ケアシステムの深化のために」  
～地域共生社会の実現を目指して～

鹿児島純心女子大学教授 八田 冷子

2. わたしの住みたい街づくりの実践報告

・住民主体の街づくり

曾於市「皆来館」の取組について

・みんなが築く助け合い

肝付町「いったんもめんと結いの会」の取組について

・まちづくりへの思い

私たち医療生協の「おたがいさま」活動について

3. 座談会（講演者と報告者の意見交換）

主 催 みんながつくる「地域包括ケア」学習交流会実行委員会

・実行委員長 鹿児島純心女子大学教授 八田冷子

社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会、曾於市地域包括支援センター、  
特定非営利活動法人介護支援専門員協会鹿児島、鹿児島県生活協同組  
合連合会、鹿児島医療生活協同組合、生活協同組合コープかごしま、  
奄美医療生活協同組合、社会福祉法人鹿児島虹の福祉会、社会福祉法  
人グリーンコープ

後 援 鹿児島県 鹿児島市

## 【2】開催報告

- ・参加者申し込み 360名
- ・実参加者 約300名（参加者280名、実行委員・要員20名）
- ・会内容

①12時30分に会場受付を開始しました。

②定刻13時30分に開会。

野元県生協連専務理事より開会のあいさつが行われました。

③鹿児島県地域包括ケア対策監 渡邊和代さんから来賓のあいさつがありました。

渡邊対策監は実行委員会への謝意と『住民主体』の視点から今回交流会のような学びの場の意義にふれ、地域づくりへの期待を述べられました。

④13時40分 鹿児島純心女子大学八田冷子教授から「鹿児島の地域包括ケアシステムの深化のために」～地域共生社会の実現を目指して～と題した基調講演が行われました。

教授は平成29年から各市町村で新総合事業が取り組まれている状況の中で1)なぜ今『地域包括ケア』なのか2)実際に取り組まれている状況3)今後の『地域包括ケア』の深化の方向について、住民の方への話として分かりやすく解説されました。また、『深化』の方向としての地域共生社会「わがこと、まるごと」の地域づくりへの期待を話されました。

(教授の講演については、講演録を参照下さい。)

参加者からは身近な鹿児島県の話で「非常に分かりやすく」「わが事」して捉える事ができた。「地域づくり」にむけて「一步踏み出したい」という感想が多数寄せられました。

⑤わたしの住みたい街づくりの実践報告として曾於市「皆来館」の取組について報告がありました。「皆来館」の活動としての実行委員会や企画会議、スタッフ会議などの運営や地域ささえあいマップの作成から見守りや声かけなどの課題への取組につながっていること。施設を利用した交流事業や子育てサロン、や各種のサロン、食事会など多世代に関わる事業が行われていることなどが報告されました。

⑥引き続いて「いったんもめんと結いの会」から活動報告がありました。高齢化の

進む肝付町の中で、地域の住民の方と『地域を語ろう会』を開き、課題を出し合いながら福祉活動計画にまとめ、活動に取り組んでいる事。「いったんもめんと結いの家」を作り、「おかずおすそわけ見守り」事業や子どもたちへの居場所づくり（食事の提供や宿題）などの活動などを行っていることなどが報告されました。

⑦続いて鹿児島医療生協の『おたがいさま』活動の報告が行われました。身近にある「困った」を解決できる仕組みとして「わたしと地域の困った」を拾い上げ、事業所や専門家の連携しながら解決を目指す取り組みを行っていることや今後の課題などについて事例を交えて紹介しました。

⑧座談会では、八田教授を進行役に、1) 皆来館の取組についての、子育ての活動の展開、2) いったんもめんと結いの会への『お食事券』の発想やなれそめについて 3) 鹿児島医療生協へ「おたがいさま」活動を通じた組合員や職員のモチベーションの向上や「サポーター」などについて質疑応答が行われました。また共通する問題としての『財源』問題や『地域への文化的な関わり』についての意見交換が行われ、最後にそれぞれの団体から今後に向けた課題が報告され、会を終了しました。

⑨実行委員の社会福祉法人鹿児島虹の福祉会久保理事長から閉会のあいさつが行われました。たくさんの方に参加いただいた謝礼と講演者、報告者への謝礼、住民主体が主体となった、生活支援を中心にした地域づくり、まちづくりについて参考いただきたいことの期待が述べられました。

⑩ 16時30分 定刻にて終了しました。

### 【3】実行員会のまとめ

(1) 今回は「住民」対象の『地域包括ケア』の学習交流を企画趣旨とした会としました。

結果、昨年に比べ事業者が減り、生協関係者（組合員）、民生委員など住民、および住民に接する社協関係者、地域包括支援センターからの参加が大幅に増えました。

参加申込内訳 生協関係者 110名。

農協 2名、シルバー 3名。社協関係者 50名。

住民・住民団体 80名（鹿児島 50、曾於 24 他）

地域包括支援センター 60名（鹿児島市 30名、他 30）

行政 25名。社福・医療・事業者 30名。

(2) 126名という多くの方からアンケートが寄せられました。

（行政・地域包括 34、住民・生協 31、社協 19、医療・事業者 38 他 4）

- ①交流会の内容については、基調講演は「分かり易かった」「よく分かった」『具体的に何をしたらいいか分かった』『再確認・再認識』『ためになった・勉強になった』『鹿児島県のこと、地域包括ケアの経過がよくわかった』『資料が豊富』等々の意見が寄せられました。対象が幅広く難しい講演だったとは思いますが各層から好評でした。
- ②報告については、日ごろ接する機会の無い他の団体の活動について知る機会となったことは刺激になったようです。それぞれに関心を集めていますが、いったんもめんと結いの会の活動については「驚き・感動」レベルだという感想が多く寄せられました。
- ③『食事券』など共通の質問にて深められたと思います。また、それぞれの『課題意識』が述べられ、より深められたという感想が寄せられました。
- ④講演、報告とも『住民主体』で『鹿児島県（の地域包括ケア）』の理解や問題意識を広げる企画としては充実した内容でした。  
『地域包括ケア』地域づくりのキーワードをもっと多くの地域住民に知っていただくことは大切です。住民を対象にした、このような機会を広げていくことの重要性を認識したいと思います。
- ⑤今回、『徘徊』の映画試写会を午前にジョイントしました。160名の参加で、一部も団体から問い合わせあったようです。県内で開催が進むことを期待したいと思います。